

## 「お言葉どおり、この身に成りますように」

### ルカによる福音書 1 章 26～38 節

女子聖学院中学校高等学校チャプレン 木戸健一

「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」。このマリアの言葉は、世界で最もよく知られたセリフでしょう。最も多くの人たちによって、最も多くの回数語られたセリフでしょう。この時期になりますと、クリスマスページェント、キリスト降誕劇が世界中の教会や学校などで行われます。皆さんの中にも、このセリフを言った方がおられるのではないのでしょうか。わたしは、このセリフは実にカッコいいセリフだと思います。それは、どこまでも神さまの御心に従って生きる生き方を指し示します。自分の思いではなく、神さまの御心に従うのです。この世界と人間を、滅びから救い出そうとされる神さまの御心に従って生きるのです。そのために神さまから自分に与えられた役割を果たして行くのです。

それは決して簡単な生き方ではありません。天使に「おめでとう、恵まれた方」と言われて、マリヤはすぐに「お言葉どおり、この身に成りますように」と答えてはいません。29 節には「マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ」とあります。マリアは「おめでとう」と言われて戸惑い、考え込んでしまいます。そして 30～32 節に記された天使の言葉は、マリアを不安に陥れます。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を生むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き者の子と言われる」。これはマリアには、とても受け容れられない言葉でした。その時マリアは「何がおめでたいのですか、わたしは大変なことになりますよ」と思っていたのではないのでしょうか。マリアは石打ちにされて殺されてしまうかもしれないのです。35～37 節で、天使はさらにこう語りかけます。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親族エリサベトも年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう6ヶ月になっている。神にできないことは何1つない」。何でもお出来になる全能の神さまの御力が働いてくださいます。マリアが産む男の子は、神さまの子であり、この世界に神さまのご支配、神さまの御国をもたらす聖なる御方なのです。マリアは全能の神さまの御力を信頼し、神さまの御心にすべてを委ねます。そして不安や後向きの思いから解放され、前に向かって歩み出します。マリアが「めでたい」のは、神さまの救いの御業に、大きな役割を果たすからです。人間の思いを遥かに超えて「めでたい」のです。

イエスさまのお名前は、旧約聖書に出てくるヨシュアのギリシア語読みです。その意味は、「神さまは救われる御方」です。神さまは、ご自分の救いの御業のために用いられるマリアと「共におられ」ます。聖霊の御力によって、常に共におられ、助け導いてくださいます。マリアは、共におられる全能の神さまに祝福されているから「めでたい」のです。マリアは世界で最も有名な女性になり、その名前は世界の歴史に刻まれました。それだけではありません。その名は神さまの救いの歴史に刻まれたのです。

そして神さまの御心に従って生きる生き方を、わたしたちの心に刻み付けてくれるのです。辛く悲しい世界の現実の先に、神さまの救いが確かにあると信じて生きる希望を、わたしたちに指し示してくれるのです。

お祈りいたします。

父・子・聖霊なる神さま。イエスさまの誕生をお待ちするこの時、一日の学びを始める前に、共に礼拝を守ることが出来ました。心から感謝いたします。どうぞわたしたちを、神さまの御心に従って生きるものとしてください。辛く悲しい現実の先に、神さまの救いが確かにあると信じて生きる者としてください。イエス・キリストの聖名によってお祈りいたします。 アーメン

2018年12月14日(金)女子聖学院中学チャペル礼拝